

第3回（通算第9回）八大学工学部長会議議事録

日時 平成28年4月22日（金）10:00～12:30

場所 KKR ホテル東京 11F 朱鷺の間

出席者 （北大）名和豊春工学部長、（東北大）滝澤博胤工学部長、（東大）光石衛工学部長、（東工大）岩附信行工学院院长、（名大）新美智秀工学部長、（京大）北村隆行工学部長、（阪大）田中敏宏工学部長、（阪大）河原源太基礎工学部長、（九大）高松洋工学部長、（連合会）伊藤紳三郎会長

陪席者 （北大・工学部）太田裕美総務課長、三分一理恵総務課係長、（東大・工学系・情報理工学系等事務部）後藤秀逸事務部長、下大田真一総務課長、（東工大・大岡山第二事務区）川村二三男事務長、宮崎洋一工系事務第1グループ長、山本久美子工系事務第1グループ主任、（名大・工学部）田川智彦副研究科長/運営委員、（京大・桂地区・工学研究科事務部）竹下基幸事務部長、渡邊正和総務課長、籾谷文一総務課総務掛長、（九大・工学研究院）出嶋敏弘事務部長、小田正利総務課長

事務局 石原直事務局長、安尾千恵子事務局員

注記 工学部長会議の回数は、一般社団法人として第3回、連合会として通算第9回である。

議題

1. 報告事項

- (1) 第2回（通算第8回）八大学工学部長会議議事録確認
- (2) 平成27年度第3回運営委員会報告
- (3) 第5回世界工学会議への参加・出展報告
- (4) 博士人材提言のフォローアップ活動報告
「理工系人材育成に関する産学官円卓会議」関連
- (5) 日英国際交流について

2. 協議事項

- (1) 今後の達成度調査の進め方について
- (2) 今後の博士フォーラムの進め方について
- (3) 提言「我が国の基礎研究力強化に向けて（案）」について
- (4) 今年度の八大学からの提言テーマについて

3. その他

- (1) 今後の予定について

配布資料一覧

- 資料1 第2回(通算第8回)八大学工学部長会議議事録(案)
- 資料2 平成27年度第3回運営委員会議事録(参考)
- 資料3 第5回世界工学会議への参加・出展報告
- 資料4 理工系人材育成に関する産学官円卓会議 第4回
- 資料5 理工系人材育成に関する産学官円卓会議 第5回
- 資料6 八大学工学系連合会との意見交換会について
- 資料7 第4回日英工学教育シンポジウム開催準備状況
- 資料8 達成度調査の在り方検討と実施状況について
- 資料9 今後の博士フォーラムの進め方について
- 資料10 提言「我が国の基礎研究力強化に向けて(案)」
- 資料11 八大学工学系連合会の会長校・幹事校について(参考)

議 事 要 旨

開会の辞

定款施行細則第4条の4に従って八大学工学系連合会会長が議長となり、第3回八大学工学部長会議の開会に当って伊藤会長・議長より挨拶があった。

会議日程及び資料確認

事務局より会議日程の説明、及び配布資料の確認が行われた。

出席者紹介

伊藤議長より出席者の紹介があり、今回より新たに出席の東工大・岩附工学院院长、京大・北村工学部長より挨拶があった。

1. 報告事項

(1) 第2回(通算第8回)八大学工学部長会議議事録確認(資料1)

資料1により、昨秋9月18日(金)、仙台にて開催した第2回(通算第8回)八大学工学部長会議議事録(案)を確認した。

(2) 平成27年度第3回運営委員会議事録(資料2、参考)

伊藤議長より、昨年12月16日開催の平成27年度第3回運営委員会における、八大学工学系連合会3事業を主とする議事詳細が記録されているので本日の議論の参考にされたい旨、紹介があった。

(3) 第5回世界工学会議への参加・出展報告(資料3)

昨年11月29日～12月2日に京都国際会館で開催された世界工学会議(WECC2015)について、八大学工学系連合会から多くの参加があったこと、総参加者数が3000人強、発表が約670件、技術展示会への出展が97社であったこと、連合会から「連合会と各

大学紹介のパネル展示」を行ったこと、最終日に京都宣言（Kyoto Declaration）が発表されたことなどが資料 3 に従って事務局から報告された。

(4) 博士人材提言のフォローアップ活動報告（資料 4、5、6）

昨年秋の常設会議以降の提言フォローアップ活動について次の 3 件が報告された。

- ・伊藤会長より資料 4 に基づいて、昨年 10 月 22 日に開催された「理工系人材育成に関する産学官円卓会議（第 4 回）」に八大学「博士人材育成に関する提言」を発表し、会議の質疑応答において八大学から提案した「正の循環」が頻繁に引用されたことなどの会議模様が報告された。
- ・東大・光石先生より資料 5 に基づいて、昨年 12 月 18 日に開催された「理工系人材育成に関する産学官円卓会議（第 5 回）」に東京大学工学系から「産業界・世界と連携した理工系人材育成」を発表し、「将来目標とする産業構造の実現に向けて人材育成を進めるべき」という議論など、円卓会議における質疑応答の様子が報告された。
- ・伊藤会長より資料 6 に基づいて、今年 2 月 10 日に開催した「文部科学省高等教育局専門教育課関係者と八大学工学系連合会との意見交換会」における、「理工系人材育成に関する産学官円卓会議の行動計画（案）」に関する意見交換・議論の様子が報告された。また、現在提示されている「行動計画骨子（案）」について、「大学のみでなく、産・官も大学と協調して行動する必要がある」、「未来を創る人材育成のスタンスが抜けている」との指摘も含めて、今後も文科省と対話を継続していくこととした。

(5) 日英国際交流について（資料 7）

東工大・岩附先生より資料 7 を用いて、今年 8 月 5 日～8 日開催予定の第 4 回日英工学教育シンポジウムの準備状況が説明された。今後、東工大より各大学に参加案内があるとのアナウンスがあった。また、「連合会の国際活動はまだ弱い」、「海外の大学と共同で工学教育の提言は」、「各国のリーグ活動のメリットは何か」などの議論があり、今後も「連合会としての国際活動への取り組み」について議論を継続することとした。

2. 協議事項

(1) 今後の達成度調査の進め方について（資料 8）

伊藤運営委員長より資料 8 に基づいて、運営委員会・達成度調査分科会（主査：北大・増田先生）で前年度に行った「達成度調査のあり方」に関する検討結果が報告された。当面は検討結果のとおり「達成度調査のプラットフォームは連合会が維持し、各大学にて達成度調査の必要性の判断に基づいて、自学の調査報告書作成費を負担する形で大学の実情に合わせた達成度調査の実施・必要性の吟味を進める。」という方針で進めながら今後の対応を引き続き検討していくこととなった。また、結果として今年 3 月の達成度調査実施校は 4 校となったことが報告された。

(2) 今後の博士フォーラムの進め方について（資料 9）

伊藤運営委員長より、博士フォーラムについても今回は内容の抜本的見直しを行った

ことが報告され、資料 9 を用いて、博士フォーラム分科会（主査：阪大基礎工・田中先生）を中心に行った見直し結果が説明された。従来の「博士学生の交流を促進する」形態から、「八大学の教員が幹事校の博士課程学生の意見・要望を聞き各大学での教育改革に活かす」という新しい形態の博士フォーラムが企画され、昨年 12 月 4 日に阪大・基礎工において実施された。また、幹事校の阪大・河原先生、およびフォーラムに参加した伊藤会長より、新しい方式の有効性と可能性に関するコメントがあり、今年度は幹事校の九州大学にさらに工夫を加えた博士フォーラムを企画・実施してもらうこととなった。

(3) 提言「我が国の基礎研究力の強化に向けて（案）」について（資料 10）

伊藤議長から、昨年度の提言の検討では報告事項（4）にあった文科省との意見交換会の場で学部長会議メンバーに議論してもらうことができたことが報告された。これを受けて事務局より資料 10「我が国の基礎研究力の強化に向けて」について、2 月 10 日版からの変更点を中心に説明があり、次の議論があった。

- ・ 4 ページ、大学教員の研究時間の制限要因の記述で、「入試関連業務」は他とは異質な重要課題なので横並びでの記載を止め、独立組織で扱うなどの議論も含めて、個別テーマとして議論する場を別途設定したい。
- ・ 同じところの「民間企業・団体での兼業」も適当と思えないので削除したい。
- ・ 6 ページ、提言 2) 基礎研究とプロジェクト型研究の調和のところに記載した、「産学官のプラットフォームの構築」に関して、①現実的に一大学で作るのは無理なので、八大学の課題として産業界を巻き込んだ場で議論したい、②阪大の ICT プラットホームの紹介、③多くの大学を巻き込んだプラットフォームを提案できないかななどの意見。
- ・ 7 ページ、提言（4）若手の安定的雇用について、「人事制度の改善」は大学自身が対応すべき課題だから大学で知恵を出せと言われる。文末は「柔軟な人事制度の構築を進めていきたい。」と第一人称の行動計画のような表現がよい。また、今後の対応では、「大学は自助努力に励むので、政府は規制緩和・制度運用の緩和で支援いただきたい」という論調にするとよい。
- ・ 7 ページ、提言（4）「若手研究者の安定的雇用」は、研究資金に関する提言（1）、（2）、（3）を進めることによって解決していくという筋書きになるのでは。逆に、若手研究者の安定雇用のために提言（1）、（2）、（3）を進めるとも言える。また、各大学で検討されている「柔軟な人事制度の構築」をキーワードとして本文に取り込みたい。
- ・ 7 ページ、提言（5）博士課程大学院生への支援では、対外的に説明する場合には、（提言には書かないまでも）「DC0=修士（2 回生）からの特別研究員制度」を提案すると良い。

なお、提言活動全体について以下の意見があった。

- ・ 今回の提言は政府あて項目が多いので、今後の対外発信を通じて「応援団」を作っていくというスタンスが良い。

- ・ 提言活動について、「提言は大枠を記述」、「個別問題はアクションプランで対応」という形が望ましいだろう。

以上の議論を踏まえて今後の対応を協議し、午後の研究科長等会議ではここでの指摘点を修正することを条件に本案を承認してもらい、その後、文章等を修正した上で対外発表や外部との意見交換などのプロセスを進めることとした。

(4) 今年度の八大学からの提言テーマについて

八大学で今年度手掛ける提言のテーマについて以下の意見が提示された。

- ・ 「博士人材育成」は（これで終りにすることなく）対外的なフォローアップ活動は今後も継続すべき。そのための各方面とのチャンネルづくりが重要である。
- ・ 「博士人材育成」も「基礎研究力向上」も永続的に扱いながら、旬なテーマを取り上げていくのが良い。提言は色々な切り口で毎年繰り返して出したい。
- ・ 文科省から、産業界と八大学連合会をメンバーに円卓会議をやるという提案もある。
- ・ 「研究」、「教育」など色々な観点での産業と大学の協働のあり方も一つのテーマ。
- ・ 現在の「産学連携」が全て目先の共同研究に偏っているのを何とかしたい。

これらを受けて今年度も運営委員会において提言の検討を進めてもらうこととした。

また、第1回運営委員会に向けて工学部長にアンケートという手も考えられる。

3. その他

(1) 今後の予定について

資料 11 を参考に、伊藤議長より今後の幹事校の予定として、今年の秋が北海道大学、来年の春が東京工業大学であることが紹介された。

- ・ 次回の常設会議について、幹事校の北大・名和工学研究院長より、本年 9 月 30 日（金）札幌京王プラザホテルで開催予定とのアナウンスがあった。
- ・ 次々回の常設会議について、幹事校の東工大・岩附工学院長より、来年 4 月 21 日（金）に KKR ホテル東京にて開催予定とのアナウンスがあった。

(2) 会長交代について

伊藤議長より、今年・来年の会長校は京都大学であり、伊藤先生は午後の定時社員総会をもって会長を退任、代わって京大・北村先生に会長に就任することが報告された。

- ・ 引き続き伊藤先生より会長退任の挨拶があり、拍手で伊藤先生への謝意を表した。
- ・ 続いて北村先生より今年度の会長を務める抱負と挨拶があった。

以上をもって第 3 回八大学工学部長会議を終了することを伊藤議長が宣言し、事務局長より、午後 13 時 30 分より定時社員総会、14 時より第 131 回八大学工学関連研究科長等会議が開催される旨の案内があった。

以 上